

# ありがとうの灯中

学校便り第17号  
令和7年8月18日  
福井市灯明寺中学校



楽しい夏休みも残すところ約1週間となりましたが、皆さん元気に『充実』した夏休みを過ごせていますか？今年の夏も、実に猛烈な暑さが続いています。連日のように「観測史上最高気温！」の文字が流れ、40度の気温や北海道でも38度を記録するなど、あり得ない事態が起きています。海の中も大きな変化があるようで、大型のクロマグロが新潟近海で大漁となったり、熱帯に住む魚が日本海沖で見つかったり、この急激な地球温暖化は今人類の最大の課題として捉える必要があると痛感します。このまま何も対策を講じなかったら、日本は確実に熱帯の国となり、日本文化の象徴のひとつでもある「美しい四季」がおそらく死語となるでしょう。日本の情緒ある自然の移り変わりを、いつまでも後世の人たちにも感じてもらえるように、車ではなく自転車を使ったり、ゴミを極力減らしたり、こまめに節電をしたり、皆でこの大切な地球を守る努力をすべきです。

ところで、来週からいよいよ学校が始まりますが、皆さんは宿題ややるべきことを納得のいく形で進めることができているでしょうか？特に、「勉強」を皆さんはどのように考えていますか？森博嗣さんは、著書の中で「学びたい」を「教えてもらいたい」と考えていたり、「教えを乞うもの」と思い込んでいたりすることが問題だと述べています。また、次のようにも仰っています。「『人から教えてもらおう』と考えることで、自ら「学ぼう」とする主体性の大半が失われてしまう。自分の頭で考え、自分で試し、自分で体験するという一連の楽しみこそが「勉強」なのである。「自分の考えをもつこと」は正解を知ることより遙かに価値がある。「知らないことを知る」ことが成長ではなく、自分なりの考えをもつ力こそが「人の価値」だと言える。『勉強とは、自分の価値を高めるための行為』なのだ」と。この森氏の言葉からは、「充実した生活」という言葉も、日々の生活の中で、自らが何か目的や目標を作り、それらに向かって努力すること、その行為自体やそこに費やす時間の中に生まれてくるのがわかります。ぜひ、何も動かず、何も考えずの、単なる「受け身の自分」ではなく、失敗を恐れず、自分で考え、主体的に取り組む「挑戦する自分」になってほしいと願います。

2025年の後半がいよいよスタートです。灯中プライドがいつも示しているように、タイムマネジメント力も含め、「自立した灯中生」になれるように精進してください。そして皆さんが、3月の卒業式や修了式の際に、この『充実』という言葉を実感できることを祈っています。福井市灯明寺中学校長 佐藤 勉 (Big Ben)

## <2025 絆プロジェクト:町との「つながり」を大切に！>

<明新地区>

<河合地区>

<中藤島地区>

7月26日(土)に河合公民館、7月26日(土)&27日(日)に明新公民館、8月3日(日)に中藤島公民館の各地域行事において『絆プロジェクト』を実施しました。河合と明新地区では、どちらも自分たちで考えた「お化け屋敷」を開き、小さい子たちが絶叫と共に大泣きすることに(まさに大成功!)。そして、中藤島地区では、「サンマルシェ」を開催し、町の人たちと「お店」のお手伝いをしました。どの地区でも、輝く笑顔があり、人と人が「つながる」喜びを感じることができました。今回の体験に心から感謝です!

